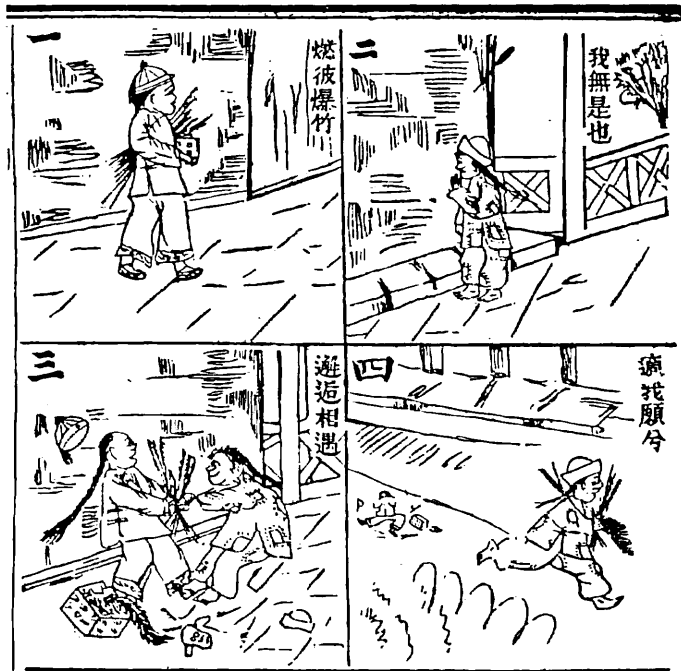


或問

第4号

	第4号に寄せて	内田慶市 ----- 1
論 文	『上海新報』に見る幕末官船千歳丸の上海来航	松浦 章 ----- 3
翻 訳	中国語の近代語彙の形成 (3)	F. マシニ ----- 21
	『官話文法』(1703) (3)	Francisco Varo --- 31
十 字 路	メドハースト雑感 -- 写真への添え書き	大原 信一 ---- 83
	仏教と耶蘇教の区別	青木稔弥 ----- 85
情報の泉	漢城大学奎章閣所蔵漢訳西書	沈 国威 ----- 87
	西学東漸研究の欧文文献情報	Joachim Kurtz --- 97
	西学東漸研究の中文・日文献情報	沈 国威 ----- 101
	新刊紹介：劉広定著『中国科学史論集』	沈 国威 ----- 103
	表紙絵の解題：中国コマ漫画の濫觴	内田慶市 ----- 105
	自著紹介：『近代啓蒙の足跡』	沈・内田 ----- 111



近代東西言語文化接触研究会

本会は、16世紀以降の西洋文明の東漸とそれに伴う文化・言語の接触に関する研究を趣旨とし、具体的には次のような課題が含まれる。

- I. 西洋文明の伝来とそれに伴う言語接触の諸問題に関する研究
- II. 西洋の概念の東洋化と漢字文化圏における新語彙の交流と普及に関する研究
- III. 近代学術用語の成立・普及、およびその過程に関する研究
- IV. 欧米人の中国語学研究（語法、語彙、音韻、文体、官話、方言研究等々）に関する考察
- V. 宣教師による文化教育事業の諸問題（例えば教育事業、出版事業、医療事業など）に関する研究
- VI. 漢訳聖書等の翻訳に関する研究
- VII. その他の文化交流の諸問題（例えば、布教と近代文明の啓蒙、近代印刷術の導入とその影響など）に関する研究

本会は、当面以下のような活動を行う。

1. 年3回程度の研究会
2. 年2回の会誌『或問』の発行
3. 語彙索引や影印等の資料集（『或問叢書』）の発行
4. インターネットを通じての各種コーパス（資料庫）及び語彙検索サービスの提供
5. (4)のための各種資料のデータベースの制作
6. 内外研究者との積極的な学術交流

会員

本会の研究会に出席し、会誌『或問』を購読する人を会員と認める。

本会は、言語学、歴史学、科学史等諸分野の研究者の力を結集させ、学際的なアプローチを目指している。また研究会、会誌の発行によって若手の研究者に活躍の場を提供する。学問分野の垣根を越えての多くの参集を期待している。

本会は当面、事務局を下記に置き、諸事項に関する問い合わせも下記にて行う。

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35 関西大学文学部中国語中国文学科
内田慶市研究室 (Tel.ダイヤルイン 06-6368-0431)

E-mail: keiuchid@pp.iij4u.or.jp

Homepage: <http://www.pp.iij4u.or.jp/~keiuchid/>

<Http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~guowei/>

代表世話人：内田慶市

『或問』投稿規定

- 投稿資格は、近代東西言語文化接触研究会会員（入会は内田、又は沈まで）。
- 投稿論文は、原則として未公開の完全原稿とし、電子テキストとプリントアウトの両方を提出する。原稿は返却しない。
- 執筆者による校正は、二校までとする。
- 投稿論文は、本誌掲載後、他の論文集等の出版物への投稿を妨げない。
- 原稿作成に当たって、『或問』「執筆要領」を厳守する。
- 原稿料は支払わないが、雑誌を格安価格で提供する。

『或問』執筆要領

1. 使用言語は、日本語、英語、中国語とする。
2. 字数は、16,000字（400字詰め原稿用紙40枚）までとする。
3. 簡単な要旨（原稿と異なる言語による）を付する。
4. 投稿は、所定のフォーマットを用い、表などは極力避ける。フォーマットは、接触研のホームページにアップしてある。（<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~guowei/>）
5. テンプレートを使用しない場合、テキストファイルの形で提出する。
6. 論文中に中国語などを混在させる場合、Windows は、微軟 Pinyin2.0（簡体字）、微軟新注音（繁体字）を用いること。
7. 注は、文末注を用い、文章の行中に（注1）のように番号を付ける。
8. 参考文献は、下記の体裁で文末注の後に付ける。

（単行本）

或問太郎 2000 『西学東漸の研究』大阪：しずみ書房

Adrian Bennett, 1967. *John Fryer: The introduction of Western Science and Technology into Nineteenth-century China*, Cambridge, Mass., Harvard University Press

（論文）

或問花子 2000 「東学西漸の研究」『或問』第1号 2-15頁

John Fryer, 1890. "Scientific terminology: present discrepancies and means of securing uniformity", *Records of the General Conference of the Protestant Missionaries of China Held at Shanghai, May 7-20, 1890*, Shanghai, pp.531-549

9. 本文や注の中で、文献に言及するときには、或問太郎（2000:2-15）のように指示する。同一著者による同年の論著は、2000a、2000b のように区別する。

内田慶市 (keiuchid@pp.iij4u.or.jp)

沈 国威 (guowei@kansai-u.ac.jp)

第 4 号に寄せて

『或問』も創刊（2000 年 10 月）以来、はや 2 年が過ぎようとしているが、ここに第 4 号をお届けすることが出来たことを主宰者の 1 人として嬉しく思っている。世に言う「三号雑誌」の悲哀を味わわずにすんだのは、ひとえに、有形、無形の多くの「善意」によるものである。お一人、お一人のお名前を挙げることはしないが、これまでの感謝を申し上げるとともに、今後の更なるご支援をお願いする次第である。とりわけ、本誌にご寄稿、ご投稿いただいている「同志」に心からの感謝の意を表しておきたい。経済的な支援ももちろん有り難いことではあるが、それにもまして優れた論文を寄せられることが雑誌の維持には何よりも肝要であるからである。皆さまのご寄稿をお待ちする次第である。

今後も『或問』は年 2 回（春秋）の発行を予定している。春号は、翻訳、文献紹介など資料提供を中心に、秋号は、研究論文を中心に編集を進めていきたいと考えている。また同時に、「単刊シリーズ」として、語彙索引や貴重な文献の影印等の刊行も構想中である。

近代東西言語接触研究会主催の研究例会もすでに 6 回を数えている。これからも少なくとも、年 2 回のペースは持続させていきたいと考えている。

そして、2 年を過ぎようとしている現在も、私たちの学問・研究に対する基本的態度はいささかも変わっていないことも、ここで改めて表明しておきたいと思う。

「先ずは疑え」であり、「学問の前では、何人も平等である」という立場である。

通説を鵜呑みにせず、対象と格闘して研鑽を積み重ねていく人々とのみ共に歩んでいきたいと考えている。

内田慶市